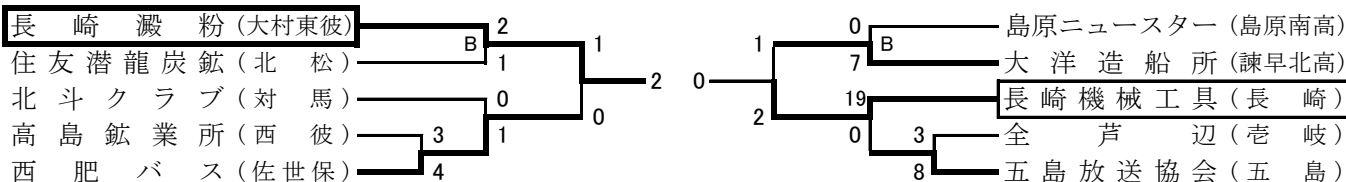


2年連続で優勝戦進出の機械工具は長崎澱粉(大村)に苦敗

第6回県下郡市対抗準硬式野球大会

会期：昭和31年10月20日(土)～21日(日)

会場：A・長崎市宮大橋球場 B・長崎商高球場



第6回県下郡市対抗準硬式野球大会は錦秋の10月20日午前8時40分から大橋球場での入場式を皮切りに二日間にわたる熱戦譜のフタを開けた。この日の長崎地方は絶好の秋晴れに恵まれ県下ゴルフファンの興味をこの一点に集中して一投一打に終日歓声と拍手が浦上原頭の空を打ち震わした。

片淵中ブラスバンドの軽快な行進曲によって審判団の棒持する国旗、長崎日日新聞社旗、長崎県軟式野球連盟旗を先頭に、大会プラカード、続いて前年度優勝の北松・住友潜龍炭鉱、五島放送協会、全芦辺、大洋造船所、島原ニュースター、西肥バス、高島鉱業所、北斗クラブ、長崎澱粉、長崎機械工具の準で各地区優勝旗をなびかせながら満場の拍手に迎えられて堂々入場しダイヤモンドを一巡して中央に整列。国旗等の掲揚に続いて開会宣言。引き



続き昨年度優勝の住友潜龍炭鉱から、優勝旗、桑原長崎日日新聞会長杯、読売新聞社杯が返還された。渡貫長崎日日新聞社長による大会会長あいさつに続いて、長田県教育長と鈴木長崎市助役が祝辞を述べ、全選手を代表して深堀住友潜龍主将が選手宣誓を行なって開会式を閉じた。

(昭和31年10月21日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)

五島、打ち勝つ 芦辺の先行も空し

【一回戦】大橋：第1試合

	003	000	032	8	9	5
五島放送協会						
全芦辺	110	100	000	3	8	7

【本】佐藤【二】柳沢、平井、相良、佐藤

【五島】打安点

④相良	4	1	1
⑧白石	4	1	0
②佐藤	6	4	4
⑥佐々木	5	2	0
①⑤岩本	3	1	0
⑤①平井	4	4	1
③平山	4	1	0
⑨能	4	0	0
⑦川口	4	0	0
38	14	6	

【芦辺】打安点

⑦武末	5	0	0
④西	2	0	0
⑧柳沢	4	2	0
⑥豊田八	3	0	0
①豊田敬	4	1	1
②中尾	4	0	0
⑨吉山	4	1	0
③大曲	2	0	0
⑤大川	4	2	0
32	6	1	

【評】遠来のチーム同士の対戦は五島の打棒が大いに振るって完勝した。先制したのは芦辺。岩本の立ち上がりを狙って西の四球を足場に柳沢と豊田の長短打で1点。二回にも2安打で加点し試合を有利に進めた。

二回まで豊田の右腕に抑えられていた五島は三回に3番の佐藤が白石を一塁に置いて右中間を抜く大会第1号本塁打で同点とし、続く岩本と平井の連打で逆転した。五島は四回から平井が登板して与えたヒットはわずか1本という好投ですっかり守備を固めた。3-3で同点の八回に執拗に芦辺の豊田に食い下がって3点を奪い引き離し、九回にも2点を加えて試合を決した。

チーム紹介【五島放送協会】

昨年8月にチームを結成したばかりの新鋭チームで本大会出場は初めて。投手陣には今春五島高を卒業したドロップの岩本、沈む球に威力を見せる白石の両右腕に、豪球で知られる平井、シュートの村中の左腕投手を補強し持ち駒は豊富。

打線も佐藤、佐々木、岩本のクリーンアップトリオは予選で5割をマークし、チーム打率2割6分の高打率を示している。ただ荒削りの域を出ないで調子に乗れば意外な力を発揮する半面、ガタガタと崩れる懸念もある。

◇総監督=梶山了◇監督=野原善照◇マネージャー=西川巖◇主将=山本良勝◇選手=岩本節朗、白石昇、平井義洋、村中明人、佐藤元一、貞方靖宏、佐々木慎太郎、平山昌一、龍健、山下一弘、高野吉郎

チーム紹介【全芦辺】

九電営業所を中心に町内愛好者で結成されたクラブチームだが今春以来、本大会を目標に猛練習を重ねただけに、那賀を8-0、瀬戸を12-0、決勝では勝本を打撃戦の末、10-9で降し、昨年に続いて二度目の代表となった。主戦の豊田は好不調の差が大きい本大会出場三回目というベテランでカーブが武器。打力の弱いこのチームにとって豊田は頼みの綱で、上位に進出できるかは豊田の出来如何にかかっている。守備は昨年に比べて格段の向上を示し特に三遊間は堅守を誇る。

◇監督=柳沢文男◇選手=豊田毅八郎、松原忠孝、今西要行、中尾信雄、大曲敏睦、西利光、大川忠正、豊田八真登、柳沢寛二、武末平八郎、吉山文夫、藤本正男、田中甫、田口睦男

西肥バス 南里がサヨナラ打 健闘の高島鉦、佐世保に屈す

【一回戦】大橋：第1試合 振球

高島鉦業所	101 010 000	3	6	4
西肥バス	200 100 001x	4	10	2

【三】井崎、西町、長崎

【高島鉦】打安点

⑥長崎	4 4 0
⑧江頭今	3 0 0
8宇藤	0 0 0
9山口	1 0 0
③渡部	3 1 2
⑦橋口	3 0 1
⑦春山	3 0 0
⑧江頭	1 0 0
⑤三宅	4 1 0
①中元	4 0 0
②河野	2 1 0
④小川	3 1 0
<hr/>	
	31 8 3

【評】両軍好守好打の応酬にファンを沸かしたが最終回に南里の殊勲打で西肥バスがサヨナラ勝ちした。3-3で同点の九回表に高島鉦業所は二死満塁の好機を逸したのに対し、西肥バスは安打の永石を井崎が送り暴投で三進した後に、西町の中飛に永石がタッチアップを怠ったため本塁が突けずチャンスは逸したかに見えたが、南里が一二塁間を抜いて決勝点を挙げた。高島鉦は日頃の球威が見られない西町を良く攻め、一、三、五回に小刻みながら得点を重ね、後半もしばしばチャンスを迎えたが、七回には暴走で、九回は後続打者の不振から逸して西肥バスに名を成さしめた。



9回裏西肥バス、南里の右前打で三走の永石が還ってサヨナラ勝ち

【西肥】打安点

⑥南里	4 1 1
⑦飯田	4 1 0
④福田	4 1 0
③下川	4 0 0
⑤田中	4 1 1
⑨緒方	3 0 0
⑧永石	4 1 0
②井崎	3 1 0
①西町	4 1 1
<hr/>	
	34 7 3

チーム紹介【高島鉦業所】

第4回大会で地区代表を端島炭鉦に譲ったのを除いて五回目出場という古豪。予選の伊王島戦10安打、茂木戦15安打が物語る通り打撃のチームで下位までムラなく当たっているが特に上位打線は一発逆転の長打力も秘めている。投手力も主戦の中元がアンダーから浮き上がるシュートとカーブを巧みに使い分ける頭脳的ピッチングを示している。今季は11勝3敗の戦績で、江藤監督も『今年は今までに無く充実しているので相当いける』と自信を見せている。

◇監督=江頭宏◇選手=中元勉、河野光男、渡辺博之、小川賢三、三宅幸介、長崎末男、橋口勇、江頭今朝八、春山次弘、福島政登、袴田金三、倉光美城

チーム紹介【西肥バス】

今春卒業した佐世保地区の高校選手を大量に補強してにわかにかにA級にのし上がった。地区予選でビッグ3といわれていた共済病院を7-0、親和を2-0、相浦食販を11-0と、シャットアウトに退けて初の代表権を獲得した。これは左腕西町の好投によるもので失点0は特筆もの。高校時代から好投手の一人に数えられ頭脳的ピッチングは定評のあるところ。打線も活発でチーム打率4割と驚異的なものがある。守備も鉄壁で他チームの追従を許さず、ダークホース的存在。

◇監督=村崎久◇主将=溝口功◇西町吉生、吉田昌弘、松尾砂人、緒方哲郎、井崎健次、下川克之、田中清輝、福田勝喜、南里久以彦、飯田恒典、永石鉄宏、川添光治、岩下克敏

【長崎】打安点

⑤平山	2 0 2
②林	4 0 2
⑨坂本	2 0 0
9成宮	2 1 2
③阪	2 2 1
7辻	2 0 0
⑧山下	4 3 0
⑦3原	5 3 4
①宮原	2 1 0
1茂	2 1 0
⑥泉	1 1 0
4橋本	2 0 1
④6伊藤	4 2 1
<hr/>	
	34 14 13

長崎、投打に圧倒 7回コールドゲーム

【二回戦】大橋：第3試合 振球

長崎機械工具	083 530 0	19	5	11
五島放送協会	000 000 0	0	6	4

【二】山下2、宮原、伊藤

【五島】打安点

④相良	3 1 0
③2平山	3 0 0
②3佐藤	3 2 0
⑥佐々木	3 0 0
⑧51岩本	3 0 0
⑤15平井	2 0 0
①8白石	2 1 0
⑨島	2 0 0
⑦川口	2 0 0
<hr/>	
	23 4 0

【評】老岐を破って二回戦に進出した五島も、優勝候補の長崎機械工具の前には敵ではなかった。五島の先発白石は一回を三者凡退に片付ける上々のすべり出しであったが、二回に阪を歩かせたのがつまづきのとなり、カウントを整えようとして山下、原、宮原につるべ打ちされて早くもKO。代わった平井も単調なピッチングのため、好球必打と待ち構える長崎機械工具打線の餌食となり、この回に致命的な8点を失い、その後は長崎にかく乱されてしまった。この猛攻に五島は傍観の体で、変化球の宮原と下手からシュートを決める茂を打てずに4安打を散発したのみで、二塁を踏む者なく七回コールドゲームに封じられた。

19点差の試合は大会史上始まって以来、初めてのことである。

チーム紹介【長崎機械工具】

昨年の準優勝に続いて二度目の出場。今年こそはと栄冠を狙っており、それだけの実力をそなえている。原、成宮、山下ら高校球界で鳴らした選手を加え、平均年齢が21歳とグンと若返った。だが西日本準硬式や全九州準硬式など大試合の経験が豊富なだけに大会の雰囲気にもまれることはない。投手陣には茂、原の左右両投手を擁し、多彩なピッチングを誇る宮原を県庁から補強しているので投手陣は完璧。打線も攻・

走・守の三拍子が揃った平山をはじめ、坂本、阪、山下のクリーンアップは当たっており、しかも全員が俊足。パントも巧く、県南地区で最も期待されるチーム。

◇監督=松浦継義◇選手=茂 實、林次夫、阪 正、山下将成、平山義之、泉弘起、成宮慶次郎、原広彌、坂本建美、宮原直善、伊藤司、橋本享三

【北 斗】打安点

⑥ 平 山	4 1 0
⑧ 島 居	4 0 0
③ 網 代	4 1 0
② 梅 野	4 0 0
④ 上 野	4 1 0
⑨ 浜 崎	4 2 0
① 宮 原	4 1 0
⑦ 林	2 0 0
⑤ 武 田	3 1 0
<hr/>	
	33 7 0

宮原の好投も空し 北斗ク "一発、が出ず惜敗

【評】北斗・宮原投手の予期以上の好投で試合は1点を争う緊迫した投手戦となった。宮原はウェイトを乗せた重い速球と外角低めによく決まるカーブで西肥バスを4安打に抑えたが三回を除いてチャンスらしいものには与えなかった。決勝点となった三回の1点は、二死後に四球の南里が二盗し飯田の右前タイムリーで挙げたもの。

これに対し北斗は打棒が冴えず、最終回到網代と浜崎の安打で二死一二塁の反撃機に宮原が一塁後方にテキサス打を放ったが、二走の網代のスタートが遅く本塁を突けず、一走の浜崎が二塁を回って飛び出したため、網代が三本間に憤死して好機を逸した。北斗の決定打不足と拙攻が折角の宮原の好投をフイにした試合だった。

【二回戦】大橋：第4試合 振球

北斗クラブ	000 000 000	0	3	1
西肥バス	001 000 00X	1	6	4

【三】緒方

【西 肥】打安点

⑥ 南 里	2 0 0
⑦ 飯 田	4 1 1
④ 福 田	3 1 0
③ 下 川	3 0 0
⑤ 田 中	3 0 0
⑨ 緒 方	3 1 0
⑧ 永 石	2 0 0
② 井 崎	3 0 0
① 吉 田	3 1 0
<hr/>	
	26 4 1

チーム紹介【北斗クラブ】

投手の宮原は県高校軟式大会で準優勝を遂げたことがあり県庁にいる宮原直善投手の実弟。長身から投げ下ろす速球が武器で疲れを知らぬタフな身体を持ち主。この速球が低目に決まれば相手打線も容易に打ち崩せまい。問題は打力で平山をトップに網代、梅野、上野と続く上位打者はしばしば巧打を放つがやはりスケールが小さい。それに加えて試合経験が

乏しいところからガタガタ崩れるおそれがあり、先取点を挙げて早く自分のペースに巻き込むことが先決だ。

◇監督=梅野義行◇選手=宮原正善、梅野敏雄、網代猛、上野公明、武田信義、平山能大、林和実、島居邦明、浜崎千秋、糸瀬紀世、山田弘、古藤博也、御手洗惟巳、末国尚美

大会スナップ

○…今年の始球式は例年と違って球を投げるのが渡貫大会会長(長崎日日新聞社長)、受ける捕手が鈴木長崎市助役、打者が長田県教育長といったベストスタッフ?。なにしろ捕手の鈴木氏はかつて東京六大学の3番打者として打撃ベストテンにも名を連ねたというベテラン中のベテラン。長田教育長もかつて瓊浦中学(旧制)教諭時代に野球部の世話をしたことがあるだけに、これまた野球オールド・ボーイの一人。三者の呼吸がピッタリ合って鮮やかな「プレー・ボール」だった。

○…快晴に恵まれてスタンドは午後から続々ファンが詰めかけ、とくに長崎代表機械工具の一塁側スタンドは応援者がギッシリ。最初は「長崎がんばれ」と、豆ファンも交じってヤンヤの声援を送っていたが、余りの五島のモロさに、いつの間にか「五島、しっかりやれっ!」

○…遠路はるばる大会に馳せ参じた対馬代表の北斗クラブは強豪・西肥バスと四つに組んで譲らず満場をうならせた。しかしその健闘も空しく1-0で惜敗したが、特に西肥バス打線を4安打に封じた宮原投手は賞賛的となり、大会本部では敢闘賞を贈って、その力投を称えた。

○…今大会には昨夏まで高校野球界で鳴らした選手が多数参加しており、ちょっと拾っただけでも諫早(大洋造船)の稲尾、佐世保(西肥バス)の西町、飯田、永石。長崎(機械工具)の原、山下、平山と、野球ファンにおなじみの顔ぶればかり。まるで高校野球の再現だと、ファンの評。

○…例年、応援は郡市対抗らしい雰囲気盛り立てて賑わうものだが、この日の第1試合目五島一壱岐の一戦には福江出身の県議、才津新造氏が五島ベンチにドッカと腰をすえて声援しきり。おかげで第一戦は壱岐を一蹴して我がことのように大喜び。一方、バックネットに陣取る大会副会長の川原一男氏は西彼出身の県議だけに、第二試合の西彼一佐世保戦を観戦中は、西彼のピンチのたびにハラハラ。結局、九回裏にサヨナラヒットを打たれて敗れ、残念そうに引き揚げた。



秋日に照らされながらファンの熱心な観戦

【大洋】打安点

⑧石丸弟	4	1	2
⑦山田	4	1	0
③白川	4	1	2
②荒木	4	2	0
①稲尾	4	2	0
⑤高内	3	1	0
④岩永	4	1	2
⑥原口	3	0	0
⑨石丸兄	3	1	0
33 10 6			

打者10人の猛攻 諫早、2回で島原を崩す

【評】諫早代表の大洋造船所は二回、荒木の左二塁打を足場に10人の打者を送り岩永の二塁打など7長短打集中し一挙7点を奪った。島原は稲尾のスピード豊かな直球を打ちあぐみ、時折投げるカーブの曲がりっぱなを狙ったが4安打散発に終わり得点できなかった。島原の井口投手も決して出来は悪くなかったが諫早の初球を狙う積極打法にすっかり気後れした感じだった。総体的に見て諫早に好守とも一日の長があり、高内三塁手の水際立ったプレーは稲尾の健投と共に印象的だった。

【二回戦】長商G：第1試合 振球

大洋造船所	070 000 0	7	5	1
島原ニュースター	000 000 0	0	3	1

【島原】打安点

⑧西見	3	0	0
⑥深田	2	0	0
③1坂本	3	2	0
⑤浜田	3	0	0
⑨森山	3	0	0
⑬1井口	3	0	0
⑥荒木	3	1	0
②松本	3	0	0
⑦徳永	2	0	0
7 榊	2	1	0
27 4 0			

チーム紹介【大洋造船所】

チームの大黒柱稲尾は今春鎮西を卒業したばかりの若さあふれる投手で恵まれた体格から投げ下ろす重い速球と切れのよいドロップは威力があり、打線もここ二三年バッティングに重点をおいた練習が実って切れ目が無く、3割5分の打率を持つ石丸兄弟や稲尾、山田の長距離打者は他のチームに、ひけはとらない。地区予選で昨年国体出場した長崎刑務所を2-0で破りナインが自信を持っているだけに侮れない。◇監督=山本行直◇助監督=川口俊孝◇選手=稲尾義文、荒木省自、白川一、岩永祐郎、高内龍士、原口、山田満士、石丸信策、石丸健治、木田雅也、中村治、山田幹雄、高内祐郎

チーム紹介【島原ニュースター】

三度目の出場。投手は左右の併用で臨む。左の坂本は速球が武器で打者のヒザ元に食い込む直球に威力がある。右の井口はかつて県下高校球界で鳴らした島高出身の若手で制球がよく球質も重い。両投手の予選3試合で失点1ということからも投手力の充実ぶりは伺われる。打線の大打ちはいないが全員渋い当たりを見せ、どこからでも得点できるのが強味で一試合平均8点を叩き出しており上位進出も可能だ。◇監督=多田昇◇選手=坂本博幸、井口聖、松本政勝、川田勝徳、深田勲夫、荒木太平、浜田泰晴、原口鉄彦、徳永忠臣、西見好広、森山嘉弘、松田清広、坂本秀人、有馬正親

延長17回、日没で引き分け 手に汗にぎる熱戦

【二回戦】長商G：第2試合(延長17回) 振球

住友潜龍炭鉱	000 000 010 000 000 00	1	9	5
長崎澱粉	000 010 000 000 000 00	1	6	2

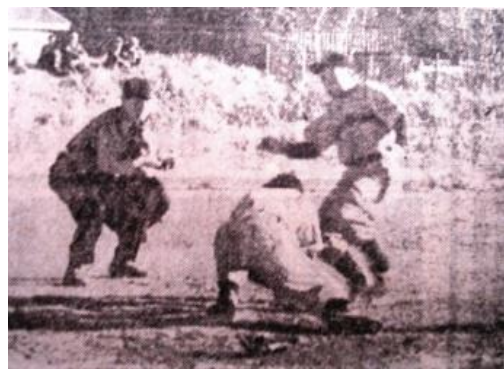
【二】野中、深堀、平田

【潜龍】打安点	【澱粉】打安点
⑥菅	8 3 0
⑤1土橋	7 2 0
⑨5大浦	8 0 0
①9高野	6 1 0
④延高	7 2 0
③深堀	4 1 0
⑦平田	7 1 0
②福富	6 0 0
⑧佐藤	6 2 0
59 12 0	
⑨草野	7 1 0
④田中兄	7 0 0
⑧永尾	8 1 0
①野中	7 2 1
②小川	6 2 0
⑦田中弟	7 0 0
⑤大島	7 3 0
③田中康	5 0 0
⑥馬場	7 1 0
61 10 1	

【評】大会初出場の大村代表・長崎澱粉は若手でガッチリ固めて3連覇をみざす強豪の住友潜龍炭鉱と互角に試合を進め、延長17回1-1のまま日没引き分けとなった。

潜龍は高野、澱粉は野中を立て初回から火花を散らす熱戦を展開。澱粉は五回に遊失に出た草野を手堅くバントで進め、永尾の三塁強襲安打で一死一三塁の好機に、野中がスクイズを決めて先制した。このあたり潜龍も新鋭の長崎澱粉に圧倒された格好で、野中の好投と合わせて澱粉に勝利の女神が微笑むかと思われたが、八回に敵失により三塁より菅が還って同点とした。(写真)

野中のアウトコースいっぱい決まるカーブが回を追うごとに冴えを見せ、はやる潜龍打線を封ざれば、潜龍も12回から土橋をマウンドに送り得意のシュートで大村を苦しめ、いつ果てるとも知れない好ゲームを展開。ついに日没のため17回で打ち切り、翌日に18回から継続試合になった。



大会スナップ

○…大会の名物男、土橋選手(住友潜龍炭鉱)は第1回大会から今度で6年連続出場。両肩を上下に動かす特徴ある動作で、長崎商高球場スタンドを埋めたファンの人気者となっていた。

チーム紹介【住友潜龍炭鉱】

2年連続優勝しているこのチームは投手力が豊富なのが何よりの強味。エース格の高野はスピードこそ無いが打たせて取る投法は定評がある。大浦は剛球投手で、土橋もドロップが決めグマ。打線もトップの菅からラストの福富まで切れ目が無く全国大会で準々決勝、全国炭鉱野球で準決勝に進出するなど目覚ましい活躍を見せている。ナインはベテラン揃いで試合運びもうまい。◇部長=山田泰久◇監督=吉松又一◇選手=高野一郎、中野実、福富政利、深堀広次、延高康男、土橋茂雄、菅素信、平田智、佐藤敏則、大浦康政、山本克幸、田中邦男

チーム紹介【長崎澱粉】

新興チームだが投打にかなりのまとまりを見せており不気味な存在だ。投手の中野は西鉄に一時籍を置いていただけに外角を突く直球は威力があり予選4試合で失点1に押えている。救援は左腕の田中と大村市役所から補強の馬場がいる。打線はトップの草野からコンスタントに当たり3割5分のチーム打率なので少々の失点は打ち返せる。加えて全員俊足で機動力も十分。油断できないチームだ。◇監督=大塚禎夫◇選手=野中靖矩、小川守、北田定、田中淳、大島涉、坂本直継、田中豊、永尾武一郎、草野徳美、池田好男、馬場格

大会第2日は絶好の野球日和に恵まれてスタンドにはファンがつめかけ好守好打の応酬に沸きかえった。準決勝戦に先立って前日没のため17回で打ち切った住友潜龍炭鉱―長崎澱粉の継続試合が午前8時から行なわれ、20回裏に長崎澱粉が敵失によりサヨナラ勝ちした。続いて9時から準決勝第1試合の長崎機械工具―諫早代表の大洋造船所は今大会二度目の延長戦となり、15回表に原の殊勲打で長崎が2-1で勝利。

準決勝第2試合は投手戦の末、初回の1点を守り切った長崎澱粉が西肥バスを振り切った。決勝戦は午後2時半開始。地元の長崎機械工具が出場しているというので、運動会帰りのファンがどっと繰り込み「長崎ガンバレ」の声援を送ったが大村代表の長崎澱粉が四回に挙げた2点を守り切って初優勝を遂げた。

(昭和31年10月22日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)

【潜龍】打安点	【澱粉】打安点
⑥ 菅 9 3 0	⑨ 草野 8 1 0
⑤15 土橋 8 2 0	④ 田中兄 8 0 0
⑨59 大浦 9 0 0	⑧ 永尾 9 1 0
①91 高野 8 1 0	① 野中 8 3 1
④ 延高 8 2 0	② 小川 7 3 0
③ 深堀 5 1 0	⑦ 田中弟 9 1 0
⑦ 平田 8 1 0	⑤ 大島 9 3 0
② 福富 7 0 0	③ 田中康 9 0 0
⑧ 佐藤 7 2 0	⑥ 馬場 7 1 0
69 12 0	6 坂本 1 0 0
	75 13 1

エラーで涙呑む 延長20回 住友潜龍、3連覇の夢ならず

【二回戦】延長18回より継続試合 (延長20回) 振球

住友潜龍炭鉱	000 000 010 000 000 000 00	1	10	5
長崎澱粉	000 010 000 000 000 000 01x	2	7	2

【二】野中、深堀、平田

【評】延長20回、二日間にわたった試合もエラーで幕切れとなった。20回裏の長崎澱粉は一二塁間を抜いた野中がヒットエンドラン失敗から二塁で憤死した後に小川と田中が連打。大島の遊ゴロで二封された一三塁に田中康の難しい二塁ゴロを延高がよく捕ったが一塁に悪投して小川がサヨナラの生還をした。

3連覇を目ざした住友潜龍炭鉱は二回戦で消えた。延長20回は大会始まって以来、初めてである。

【長崎】打安点
⑤ 平山 6 1 0
④6 伊藤 5 0 0
⑧ 山下 7 3 1
③ 阪 6 0 0
⑦ 原 7 2 1
⑨ 坂本 3 0 0
9 成宮 3 0 0
⑥ 泉 3 0 0
4 橋本 2 1 0
① 茂 1 0 0
1 宮原 4 0 0
② 林 6 1 0
53 8 2

息詰まる投手戦

延長15回 原の一撃で長崎勝利

【評】1-1のまま大会二度目の延長戦に入り熱戦15回、長崎は先頭の平山が右前打、投前バント野選の無死一二塁も二者凡退したが坂本が左前に流し打って二塁より平山を迎え入れてケリをつけた。

初回の長崎は平山が四球、バントで二進し山下の左前適時打で先制したが、その裏の大洋造船所も四球の山田が二盗に成功し荒木の左前打で同点とした。その後は大洋造船の白川が低目を突く快速球で、また機械工具は茂に代わった宮原も変化球で共に好投し延長戦にもつれ込んだ。

この間に機械工具は再三、得点圏に走者を進めるも決定打が出ず、また大洋造船所は三回の一死一三塁の好機は左翼・原の好返球で、九回一死一二塁は稲尾の遊撃左を襲ったライナーを身を挺して好捕、併殺に打ち取られてサヨナラ機を逸した。

【準決勝】 (延長15回) 振球

長崎機械工具	100 000 000 000 001	2	12	4
大洋造船所	100 000 000 000 000	1	10	3

【二】橋本、石丸弟

【大洋】打安点
⑧ 石丸弟 6 1 0
⑦ 山田 4 3 0
① 白川 6 0 0
② 荒木 6 1 1
③ 稲尾 6 0 0
⑤ 高内 5 0 0
⑥ 原口 4 0 0
④ 木田 5 1 0
⑨ 石丸兄 5 0 0
47 6 1

【西肥】打安点
⑥ 南里 4 0 0
⑦ 飯田 4 1 0
④ 福田 4 0 0
③ 下川 4 0 0
⑤ 田中 3 1 0
⑨ 緒方 3 1 0
⑧ 永石 2 0 0
② 井崎 3 1 0
① 西町 3 0 0
26 4 0

1回の1点が命取り 西肥バス、貧打で惜敗

【準決勝】 振球

西肥バス	000 000 000	0	10	1
長崎澱粉	100 000 00x	1	9	1

【二】野中

【評】長崎澱粉は西町の立ち上がりを積極的に打って出て草野が右前打、田中が送り永野の中前タイムリーで幸先の1点を挙げ試合を有利にした。

西町は二回以後は立ち直り打たれながらも要所を締めていたが、この1点を返す打力が西肥バスに無く敗戦投手になったのは気の毒。

一方、味方のリードに気を良くした澱粉の野中は得意のドロップを駆使して打ち気にはやる西肥打線を4安打散発に抑え危なげないピッチングで初出場ながら優勝戦に進出の原動力となった。

【澱粉】打安点
⑨ 草野 3 2 0
④ 田中兄 3 1 0
⑧ 永尾 4 1 1
① 野中 3 1 0
② 小川 3 0 0
⑦ 田中弟 3 0 0
⑤ 大島 3 0 0
③ 田中康 3 1 0
⑥ 坂本 3 1 0
28 7 1

昭和31年の全国大会における長崎県代表チームの戦績

天皇賜杯第11回全日本軟式野球大会【50チーム】

(S31. 8. 12～・和歌山県)

- 住友潜龍炭業所 【一】 5-0 信越化学(福井)
- 【二】 6-1 全橋本(開催地)
- 【三】 5-3 千葉相互銀行
- 【準々】 2-3 東圧彦島炭業所(山口)

第7回西日本準硬式大会【25チーム】

(S31. 5. 5～・香川県)

長崎機械工具 【一】 0-8 全松島クラブ(大阪)

第11回兵庫国体(25チーム)には不出場

長崎澱粉、堂々の初優勝

野中の怪腕冴える 長崎機械工具に反撃許さず

【機械】打安点

⑤	平山	4	1	0
④	伊藤	4	1	0
⑧	山下	3	1	0
③	阪	2	0	0
H	成宮	1	1	0
⑦	原	4	1	0
⑨	坂本	2	0	0
H	辻	1	0	0
⑥	泉	4	0	0
①	茂	2	0	0
1	宮原	2	0	0
②	林	3	0	0
		32	5	0

【優勝戦】

長崎機械工具	000 000 000	0	4	2
長崎澱粉	000 200 00X	2	3	3

振球 【二】山下

【評】 こういう大試合は先取得点が大きく影響するだけに先取点獲得に燃える両軍はへき頭から積極的に打って出た。機械工具は初回の一二塁を、四回には先頭・山下が二塁打の先制機を逸した。

澱粉も二回と三回に先頭が出塁するも後続に決定打が無く、中盤の四回裏の澱粉は一死後に左前打の野中が二盗。小川の三ゴロが走者に気を取られて生かしたため、一死二三塁の好機を得た。田中が三振に倒れた後で、大島が一塁線を抜いて二者を迎え入れた。

この2点は野中の出来から見て、機械工具にとっては大きく、再終回無死一二塁の際どい局面も強行策に出てつぶし1点すら返せなかった。

ここは一応バントで二三塁に送るべきではなかったろうか。また結果論ではあるが、機械工具の先発・茂が球威不足で二、三回に先頭打者を出すという薄氷を踏むピッチングだっただけに、四回、野中に打たれたところでベテラン宮原にスイッチすべきではなかったか。

それにしても澱粉の野中投手の3試合38イニングス登板で失点1、自責点0の力投ぶりは賞賛に値する。

【澱粉】打安点

⑨	草野	3	1	0
④	田中兄	4	1	0
⑧	永尾	4	0	0
①	野中	3	1	0
②	小川	3	0	0
⑦	田中弟	4	1	0
⑤	大島	4	1	2
③	田中康	3	1	0
⑥	坂本	0	0	0
6	池田	1	0	0
		29	6	2



4回裏長崎澱粉二死二三塁、大島の右線安打で野中に続いて小川も生還し2点目を挙げる



胴上げされる長崎澱粉の大塚監督

大会の掉尾を飾る閉会式は優勝戦終了後に行なわれ、長崎澱粉チームの大塚監督に渡貫大会会長から優勝旗を授与、さらに田中主将に桑原会長杯、野中選手に読売新聞社杯が授与され、準優勝の松浦監督に渡貫長崎日日新聞社長準優勝杯が授与された。

個人表彰は最高殊勲選手賞に優勝戦で決勝の2点打を放った大島(澱粉)、優秀投手は三試合健投した野中(澱粉)、首位打者は打率5割の山下(機械)、美技賞には準決勝の対諫早戦九回裏一死一二塁のピンチに遊撃左を抜かんとする打球を体当たりで捕球し併殺で機械工具の危機を救った伊藤に。敢闘賞は二日間健闘した宮原投手(機械)と同じく白川投手(諫早)が受けて、賞品が授与された。



県警察プラスバンドの先導で場内一周する長崎澱粉ナイン

優勝戦の前座試合として審判連盟と来賓・役員によるオープン戦が行れた。

お梅さんチーム	000 00	0
お花さんチーム	000 5X	5

お花さんチームの鈴田長崎市助役はかつて東京大学で二塁手として活躍していただけに巧打好守ぶりを見せて、50歳とは思えぬ元気さを見せた。

お梅さんチームの長田県教育長も、3打席2安打で大いに気を吐いた。

【お梅さん】

- ④ 長田・県教育長
- ⑨ 渡辺源・県連理事長
- ⑤ 田中光成・審判長
- ①7 木下松次郎・審判
- ③ 黒川勝・審判
- 3 坂本健美・審判
- ⑦1 高島一生・審判
- ⑧ 上戸路夫・審判
- ② 中村豊・審判
- ⑥ 酒本静馬・審判
- (監督)松浦継義・県連会長

【お花さん】

- ④ 鈴田・市助役
- ⑤ 尾崎光次・副審判長
- ③ 田中実・副審判長
- ⑨ 宮崎伊三郎・副審判長
- ① 亀屋登・審判
- ⑧ 伊藤司・審判
- ⑦ 丸田幸雄・審判
- 7 森清・審判
- ② 米崎米光
- ⑥ 岩永豊明・審判
- (監督)立花正則・市連会長